

「教会の二つの柱」

～わたしたちは神に愛されている子どもたち～

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれてある喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。」 ヘブル人への手紙12章2節

イエス様はどのようなお方であったか？それは父なる神様の次のことばによって決定される。「これはわたしの愛する者、私の心にかなる者である。これに聞きなさい。」

イエス様が洗礼を受けられた時にこのお言葉をお受け止めになった直後、聖霊様によって、荒野に導かれて悪魔によって信仰のテストを受けました。

悪魔は三つの誘惑をしましたが、その誘惑に勝利したのは、この神様によって語られたお言葉によってであったとヘンリー・ナウエン先生は語っています。

「石をパンに変え、自分が何者であることを示し、神に愛されていることを証明せよ。華々しくふるまい、神殿から身を投じてみ使いに助けてもらい、愛されている者であることを証明せよ。そうすればニュースやテレビに取り上げられ、あなたがいかに素晴らしい者であるかを誰もが見るができる！つねに主導権をとれる力と影響力を持っていることを示し、愛されている者であることを証明せよ！」

と悪魔は誘惑してきましたが、それに対してイエス様は、

「わたしは何も証明する必要はない。わたしは愛されている。ヨルダン川でそう呼ぶ声を聞いたのだから。わたしは愛されている者であると分かっている。わたしは次の言葉を聞いた。『あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者』」

イエスはこの言葉を信じ、ご自身が何者であるかを知っておられました。その生涯のすべてを、神に愛されている者として生きました。彼の霊には、神の愛が染みわたっていました。そして、決然として死を受け入れたのは、神のみもとへ行くことと、間もなく友人たちに愛の聖霊を送ることを知っておられたからです。

そして、この父なる神様のお言葉は、そのままイエス様に従っていく私たちクリスチャンたちにも語られています。「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と語られるお父様のお言葉をいつも聞いていく必要がありますし、それを信じ、決して人々の評判や、行いによって認めてもらうとする必要は全くないということを忘れてはならないのです。

世の人は、私たちをさげすむこともあるかもしれませんが、私たちの天のお父様はいつも私たちを愛して、子として取り扱ってくださるのです。

この世にはない天の恵みによって満たされている私たちの交わりをさらに感謝し、喜びと共に、その喜びが、ひとりでも多くの方々に届けられることを信じて、さらに神の愛を実践していきたいと願っています。主の祝福をお祈りしています！